

帯広市立明和小学校

実施日：平成 23 年 10 月 28 日（金）13:25～14:10

講 師：安田 愛子氏（択捉島出身）

安田愛子と申します。宜しく申し上げます。今日は、皆さんと一緒に北方領土のことについて勉強したいと思います。皆さんは既に学校で北方領土のことを勉強しているので、少しは分かっていると思います。（地図を指しながら）帯広は皆さんが住んでいる北海道のこのあたりにあります。それからずっと東の方に行くと根室というところがあります。根室には根室半島が突き出ています。その突端にノサップ岬というところがあります。ここには、「四島の架け橋」という返還要求運動のシンボル像が立っています。これは全国の人に呼びかけて募金で建てた像です。

この島は択捉島です。この島は国後島です。この島は色丹島です。ここに小さな島がたくさんありますけれども、これらをすべて歯舞群島といいます。この4つの島を合わせて北方領土といいます。北方領土は、昔から日本人が住んでいて開拓した島で、昔から日本の領土です。なぜ日本人がこの島を開拓したのでしょうか。それはこの島に水産資源や鉱物資源や木材などがたくさんあったためです。日本は資源が少ないので、この四島を開発することは大変重要だったのです。

四島の地形を調べてみたいと思います。国後島に爺爺岳（ちゃちゃだけ）という山があります。そして、択捉島には散布山（ちりっぶやま）という大きな山があります。千m級の山が10以上もあり、千島火山帯が通っています。山脈を挟んで北はオホーツク海、南は太平洋に挟まれています。崖は切り立っていて、川が海に注いでいます。択捉島の薬取村に薬取川というのがあり、28kmになります。皆さんが住んでいる帯広には、北は十勝川、南は札内川、帯広に帯広川、帯広川は帯広岳から流れ出て、札内川に注ぎ込んでいます。その長さは43kmと言われてますので、択捉島の川がいかに短いものかということが分かります。歯舞群島と色丹島は昔、根室半島と繋がっていましたが、陸地の陥没や水面の上昇など、長い時間をかけて現在の形になりました。

次に産業を見てみましょう。水産業は、主なものは鮭とか鱒などです。その他、サンマ、カニ、エビ、ホタテ等も獲れました。また、昆布、海苔、鯨などが捕れます。この海産物は島で缶詰になったり、干物になったりして、日本はもちろんですが、外国の方までたくさん輸出しておりました。島のほとんどが森林に覆われています。大変良い木材が獲れます。木はエゾマツ、トドマツです。それらの木は函館や根室に送られていました。木の一部は島の建築材料や魚の箱、燃料に使われていました。金、銀、銅等の資源がたくさんあることが知られています。島は交通の便が悪かったため、余り獲られず、金、銀、硫黄が生産されておりました。海上交通は船で、陸上は馬です。馬は荷物を背負って狭い道でも通れるので、馬で物を運びました。

ノサップ岬から北方領土の島々までどのくらいの距離があるのでしょうか。ノサップ岬から択捉島まで144kmです。国後島まで37.3kmです。色丹島まで73.3kmです。歯舞群島の根室側に貝殻島というのがありますが、貝殻島まではわずか3.7kmです。天気の良い日は貝殻島が見えます。明和小学校から帯広駅まで3.7km以上有ると思いますが、そのくらいの距離に貝殻島があるのです。ここが知床半島で、その下に野付半島があります。野付半島から国後島まで16kmしかありません。この4つの島はどのくらいの大きさがあるのでしょうか。4つの島の合計面積は5,036km²です。愛知県か千葉県くらいの大きさがあります。この島にはどのくらいの人がいたかということ、昭和20年8月15日現在、17,291人が住んでいました。帯広の人口は、168,491人です。気候は、すごく寒いイメージがありますが、そんなに寒くはありません。冬は

マイナス6～8度、夏は16～17度で暑くはありません。霧が出て太陽が余りでないので、そんなに暑くなりません。雪は50cmくらい。

島にいる動物は、熊、キツネ、リス、クロテンがいます。海には、鯨、トド、イルカ、ゼニガタアザラシ、ラッコがいます。ラッコは北方領土近辺に多くいます。2年前に、釧路川にラッコが現れて大騒ぎになったということがありました。ラッコの皮はなぜ貴重かという、動物の毛は通常、片方にしかなびかないのですが、ラッコの毛は両方になびくので貴重なんです。川には、鮭やオシロコマ、ヤマメ、ウグイがたくさんいました。

海の鳥は、海ガラス、ウミネコ、エトピリカがいます。エトピリカはアイヌ語で、くちばしが美しいという意味です。あまりにも美しく、花魁鳥という名前もついています。湖には、白鳥や鴨が来ます。山には、大鷲やオジロワシなどもいます。

花は、北海道で咲いている花が咲いています。特に、ハマナスの花が群生して、多く咲いています。島は本当に宝の島と行ってもいいくらい自然の宝庫です。皆さん、島のこと分かりましたか。

私は、択捉島の薬取村で生まれました。薬取村のこと、ソ連軍が入ってきたこと、引き揚げてきたときのことをお話ししてみたいと思います。薬取村は漁業の村です。秋に鮭があがってくる頃になると、本州や北海道から出稼ぎの人たちがたくさん入ってきます。普段は500人くらいの村ですが、出稼ぎの人たちが入ってくると1,000人に膨れあがります。そして村はすごく活気づきます。秋味は薬取川でもいっぱい遡上してきます。川幅いっぱいにあがってきます。棒を建てても倒れないくらい魚が上がってきます。浅瀬では鮭が背びれを出して泳いでいますが、川岸いっぱいになりますので、その上を動物が走ったりするのを見た人はたくさんいます。鮭漁が終わると出稼ぎの人たちはそれぞれの故郷に戻っていきます。そうすると村は元のように静かになります。

子供の遊びと言えば、山や海や川です。魚釣りをしたり、木に登ったり泳いだりします。私は海でよくカレイを取りました。カレイは海の浅瀬で砂の中にさっと隠れてしまうのですが、足ですくい上げるようにするといくらでも捕まえることができました。魚は川でも釣り竿を入れるといくらでも釣れました。魚を釣って家に持って帰ると、母は、もう魚はいらないと言われたこともありました。山では、木の実を取って食べたりしました。大人の楽しみ、子供の楽しみは小学校の学芸会です。就学前の子供も来て楽しめます。村で一番賑やかなのは、お祭りです。大変賑やかにお祭りが行われます。

薬取村には日本一という物があります。それはここにラッキベツという所があります。ここには、ラッキベツの滝というのがあります。何が日本一かということ、陸地から海に流れ落ちていてその落差は144メートルです。とてもきれいな滝だそうです。私は一度も見たことがありません。北方領土が日本に帰ってきたときには、一番先に行って見てみたいと思います。薬取村は自然が豊かで、平和な村でした。どの島もみんなそうでした。島を故郷にして明るい希望を持って生活しておりました。

ところが、昭和20年8月、戦争が終わって間もなく、ソ連軍が上陸してきました。日本人はこの島から出ていけ。そういう命令です。多くのソ連軍と家族が入って来ました。私の家にも将校が一人やってきました。各家の開いている部屋には、ソ連の人が入って生活をするようになりました。空き家にも家族が入ったり、親戚同士一緒になって家を明け渡してそこに家族が入って来ました。村には小学校が一つしかありません。中学校は北海道の方に行って勉強することになります。その小学校で日本の子供達とソ連の子供達とが分かれて勉強しました。ソ連の子供達は体育館(運動場)で日本の子供達は教室で勉強しました。休み時間も放課後もみんな仲良く遊びました。ソ連の校長先生は、「自分たちは後から来たものだから、体育館でいい」と行ったそうです。子供だったからかもしれませんが、みんな仲良く遊びました。山、海、川などに行って一緒に遊びました。男の子は、時々、喧嘩もしたそうです。

私の母は、村で一台だけミシンを持っていました。食糧がないので、着物と食糧の物々交換をしました。将校の奥さん達から、その着物でドレスを作ってくれと頼まれ、着物をほどいて何枚もドレスを作っておりました。とても喜ばれておりました。ソ連の人たちの食べ物と言えば、黒パンです。厚い黒パンにマーガリンを塗ってその上に砂糖をかけて食べるんです。ウクライナから寒い北方領土に来ていますので、バターとかマーガリンをつけて食べたのではないかと思います。ソ連の人がパンを作るときには、その頃はパンの機械もありませんし、ボウルや鍋も少ないので、洗面器を使ってパンの生地をこねていました。

私が小学校2年生の時、引き揚げの日が来ました。父や母は大事なものを家の前の空き地に穴を掘って埋めました。写真とか大事な物は持って帰れないんです。カメラなどはソ連の人たちにあげたそうです。村の人たちは着のみ着のままで引き揚げの用意をしました。そして、少しの荷物を持ってトッカリモイの入り江にある番屋まで何キロも歩いて行き、そこで3日間過ごし船が来るのを待っていました。

いよいよ船に乗るときになって、私の父だけ残れという命令を受けました。どうしてかというと、私の父は水産孵化場の技師だったので、ソ連の人たちにその技術を教えるために一人だけ残されました。いやとは言えません。いよいよ船が出ると言うときに今生の別れをしました。この世ではもう会えないかもしれません。その時は本当に悲しかったです。父一人を置いて皆船に乗りました。そして、薬取村からソキヤまで移動し、3～4日間、ソ連の船の到着を待ちました。子供達は朝早く起きて、朝靄の中を遊びました。遊んでいるとき、大人の人が臼井さんが来たと言いました。私は振り返ると、遠くに朝靄の中を父が馬に乗って走ってくるのが見えました。村の人たちはたくさん出てきて大騒ぎになりました。その時の感激は今でも忘れません。父の話ですと、私たちが薬取村を出るとき、一緒に住んでいた将校がソ連の本土へ出張に行っていないでした。将校が奥さんを連れて戻ってきたとき、父がそのわけを話したら、その将校が上官に何回も掛け合ってくれて、帰れという命令が父に下されたそうです。孵化場に通うのに使っていた真っ白い馬の「シロ」にまたがって夜も寝ないで細い道、坂道、崖などを走りに走ってようやく引き揚げ船に間に合いました。その時は本当に嬉しかったです。そのソ連の将校がいなければ父と一緒に帰れませんでした。人間としての優しい気持ちを持ったその将校のことは決して忘れません。父を乗せて、船は、別飛（べつとぶ）、紗那（しゃな）、留別（るべつ）、内岡（なよか）を周り、村の人達が一緒に乗り込んできました。貨物船ですから、大きな船底で甲板の上に上がるには、細いはしごを登らなければなりません。子供ですから、はしごを登ってトイレに行くのが大変でした。大人たちがおまるのようなものをたくさん用意してくれて、子供はそこで用を足しました。大人は、甲板に上がってもトイレはたくさんないので、甲板の上で用を足した人がたくさんいました。船に乗って樺太の真岡に到着しました。真岡の収容所はすごく遠いところにあり、そこは学校でした。サハリンの土は黄色くて粘土のような土です。雨が降るとするするしてとても歩きにくいのです。その学校の校庭にトイレが深く列をなして掘られてありました。そこに行くのはとてもいやでした。そこに子供が落ちて亡くなったという話を後から聞きました。本当に悲しいことです。

日本の船が迎えに来ました。日本の船に乗って函館の港に着きました。でもすぐには下りられませんでした。なぜかという、感染症が船の中で流行っていました。それでまた、別な船に移ってしばらく待ちました。いよいよ下船という時になりました。大人も子供も、DDTという真っ白い殺虫剤を頭の前から足の先までかけられて、下船しました。皆真っ白になっていました。函館に上陸してから、島の人達はそれぞれ、親戚や知人を頼ったり、本州に行ったり皆ばらばらになりました。北海道に落ち着いた人がたくさんおりました。私の家も親戚が函館にありましたので、そこにしばらくおりました。父の仕事の都合で北海道のあちこちに行きました。学校を4回も変わりました。私は転校生でしたけれども、学校の生徒はやさしくしてくれました。みなさんも転校生が見えたときには、学校のこととか帯広のこととか、やさしく教えてあげてください。

戦争が終わり、引き揚げてきた人が四島返還に向けて広がる中、墓参、ビザなし交流、自由訪問というのが

始まりました。

今では日本から9,997名が北方領土を訪問しています。そして、ロシアの方からも、7,336名が日本に来て日本人と交流を続けています。今年の7月、私が生まれた択捉島の村に行ってきました。朝、根室港を出て、国後島の古釜布（ふるかまっぶ）で入域手続きを済ませ、ハンター3名も乗り込みました。その後、国後水道を通り、択捉沖に着くまで一昼夜かかりました。船から伴走船に移って沖まで行き、そこから10人くらいずつ小型ボートに乗って上陸します。薬取の村は、たくさんあった家が何もありません。昔の面影は何もありません。私たちは、この辺に何があった、ここは役場があった、ここはあなたの家だそんなことを言いながら墓地に向かいました。墓地は昔は小学校の前の小高い丘の方にありましたが、今は、村の外れの平らなところに移されておりました。墓地は草の中に隠れています。皆で草刈りをしました。その辺に咲いている花をたくさん取ってお墓に供えました。お経を聞きながら、本当に長いご無沙汰をお詫びしながら、深く深く頭を下げてお参りをしました。お参りした後、後ろ髪を引かれる思いで帰りました。途中、学校の門がありました。朽ち果てて倒れそうになっていました。門が、ここに学校があったことを教えてくれます。しばらく行くと松の木がありました。その松の木はお寺があったところにありました。長い風雪に耐えながら待っていてくれました。そして、お寺のあったところを教えてくれました。住んでいたときは川の向こうにたくさんのハマナスが群生して咲いておりましたが、今は村のあった方にハマナスの群生がありました。長い間に生態系がだんだん変わっていくということを実感しました。私は、2回自分の生まれたところに行っております。最初に行ったときには、警備兵がたくさんおりました。家族もおりました。でも今回は誰もおりませんでした。いたのは、4名の漁民だけです。その漁師の人達が私たちに、花咲ガニをごちそうしてくれました。ロシア人のやさしいおもてなしに感謝しながら花咲ガニをご馳走になりました。とてもおいしかったです。薬取の味を味わいました。

ソ連軍が北方領土を占領してから66年が経ちました。元島民の平均年齢も78才になろうとしています。私も72才のおばあさんになりました。北方領土については、日本とロシアが交渉を続けています。でも一向に進展していません。私たちは長い間返還運動を続けています。また、全国の人も返還運動を続けています。帯広では平原祭り、氷祭り、北方領土の日の2月7日に北方領土返還要求の署名運動をしています。その時に見かけたら、皆さんも協力して下さい。そして北方領土に関心を持って下さい。一日も早く北方領土が日本に返還されることを願わずにはいられません。今少し北方領土のことを話しましたが、分かったでしょうか。最後に島の名前を言ってみたく思います。皆さんで言って下さい。択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島、この四つの島が北方領土です。北方領土は日本領土だということを忘れないで下さい。明和小学校の5年生の皆さん、静かに、真剣に私の話を聞いてくれて嬉しかったです。これからも、みんなで仲良く、みんなで楽しく、健康に気をつけて一生懸命勉強に励んで下さい。これで私の話は終わります。有り難うございました。

